

兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

それから其小供に遊戯をさせます。際此發動的的小供は概して言ひますと遊戯などは餘程得意な方で上手であります、殊に一組の小供を扱ふ時に此發動的の性質の充分に有る者を以て此組の嚮導の地位の所に置いて其小供をば中心として遊戯をやるといふと大變工合好く行ける、大層面白く行ける然るにさう云ふ方法を執るといふと益々此發動的兒童は其個性が殖へていけない、それだからして遊戯としては餘り一組の遊戯の全体が面白く出来ない活潑に旨く仕悪いといふやうな不便はありまして之を恐んで唯々上手にやる發動的の小供をば中心としたやうな取扱方をしない様にした方が小供の爲に宜しいのです、詰り發動的の小供は大將が其他の者を之に従はせる様なやり方を以て遊戯の時に能く整頓が出来巧みに出来すけれど其度々それをやると益々其小供の個性を發達させるからそこで此あとの者に興味を失はせない様

にあるだけの程度に於て、時々は中心の位地に立つてやるけれど何時までも絶へず之をさせない様にすれば自然と發動的の小供の個性をば無暗と發達させない様になるのです、それであるから私の詰り研究した結果で申しますと幼稚園などで何時でも遊戯の時に中心になる小供を極めることは悪い、自然に極めて仕舞へば其小供は發動的になつて仕舞ふ、それからして何時でも此類の小供に植物などをば見せてさうして幾らか自然に近づけるといふやうな事も必要ですけれど、此動物などと接近させる方法を考へることが餘程必要で成る可くこちらで以て實際の植物採集といふやうな場合には餘計に此小供を連れて行つて宜いけれどもこちらで或花を探つて其花に付て學術的に花はどうか云ふ花でどうなつて居るといふやうなことを説明してやることは概して悪い、詰りこちらで説明をしてやれば其小供は右の耳から左の耳に抜ける小供だから詰りこちらで熱心に説明したことに對して充分に注意して居らないから此小供の智識を養成する様にはならない、だからこちらで問うと

其小供自身に觀察させて答へさすといふ様にし保
 姆の方で之を説明的に述べることは斯う云ふ様な
 小供を取扱ふ方法では無い、成るべく小供の精神
 を働かせて考へさすといふやうな手段を執つた方
 が此小供を教へる旨い方法です、物理とか化學と
 かさう云ふ學問上の智識は此類の小供には早く授
 けられた方が宜い、何故かと言ひますと此自然界には
 物理上どう云ふ譯であらうかとか化學上どう云ふ
 譯であらうかとか言うて説明を求め、考へなければ
 ならぬやうな問題が澤山ある、即ち小供などに
 能くある事ですが、どうして電氣が出て來るだら
 う、どうして此の月は自分が歩いて行くと月も
 一緒に歩くやうになつて居るだらう、さう云ふ問
 はナカ／＼小供には自然に出るものですさう云ふ
 問がある時には發動的の小供に自ら考へさす習
 慣を附けることが餘程必要です、即ち小供が天然
 の事を問ひたがる其問ひたがる性質をば成るべく
 物理化學といふやうな理學的の方面に導いて兎に
 角道理を考へるやうな性質を持たせる方が此小供
 を扱ふのに非常に得策であります、

此發動的の小供は我々の方で餘り命令でやるとい
 ふといけませぬ、斯うしろとかア、してとかいふ
 言葉で以て命令が多いのは餘り役に立たぬので
 す、こちらからして命ずるといふと却つて反對な
 事をやつてさうして保姆や教師の顔を見て居ると
 いふのが矢張り發動的の小供に多いのです、一度
 命令をして小供が聽かないから尙更に命令する又
 聽かない、尙一層強くするから自然と命令を聽か
 ないといふ、割合に重い命令を與へる事になれば
 益々其小供の反抗性が強くなつて來る此發動的の
 兒童にはさう云ふ事をしてはいけなやと言ふと
 其命令が何故害があるかといふと「いけなや」と
 いふ方の止める言葉はチョツとも心に對して強い
 勢力を持たないのでありましてさう云ふ事をする
 といふ運動の觀念の方が強く感ぜられる、元來が
 運動性の小供でありますから運動的の觀念はさう
 云ふやうな小供の精神に大變強い感動を與へる、
 「してはいけなや」と抑へ付ける抑制の方面よ
 りはさう云ふ運動といふ言葉の方が強く心に感ず
 るのでそれで其觀念が働いて其運動をやらせる様

になる、詰り言ひますと此類の小供には何でも運動に關係した觀念は感じが強いですから此類の小供には精神の中に於て勢力を持ち易いだからこちらで言つた事が却つて運動を奨励するやうな意味になるのです、だから言葉で命令をするよりは寧ろこちらの舉動で以てそれはいけないといふ事を見せた方が効力がある言葉で命令を與へるよりはこちらの舉動で見せた方が効力がある、それでありますからこちらが止めるといふと勢に乗じて益々やるといふのが發動的性質のものであります、詰り黙つて之を止めて仕舞ふ、或はこちらの様子で示すのが確かに良き方法であります、丁度催眠術に掛かつてさうして催眠の情態に在る人がこちらで以て何か言ひますとズツと言つた通りやるといふのは何の爲かといふと稍々こちらで觀念を與へると其觀念が直ぐに其人の精神の中に勢力を持つて來るからしてそれで直ぐに其人の運動になつて表はれる、それと同じ事でこちらで其小供がして居る舉動を止めさせやうと思つて何々をしてはいけないぞといふと何々をしてはといふ行ひに關

した方の觀念が勢力を持つて却つて運動になつて現はれる、それだから此類の小供には其觀念を與へるやうな命令をやることは却つて害がある、それから罰を與へることに付ても其小供に對して罰を與へるのは餘程考物です、詰りこちらが罰しやうと思ふと其小供の方で却つて自分が其罰を悔へるといふ事を以て愉快とする傾きがあります、詰り其罰するぞといふ罰を恐んで受けて自分が悔へて居るといふ所に一種の愉快がある、矢張り自分の力を發表する考を起すのです、自分はえらいであらう自分は是丈けの力を持つて居る是丈け反抗が出来る、えらいであらうといふやうな感じを持つて居る、それだからして此類の小供にはさう云ふ事をすれば罰しますぞといふ事が餘り効力が無い却つて心の方からして悪いといふ事を理解させて止めさせる、訓誨を與へるといふ方法が罰といふ恐怖心に訴へる方法よりも一層効力が多い、要するに此發動的兒童といふ者は學問上の言葉で言ふと暗示性といふものが大變強いのです、チョツと言はれた事からして暗示、暗に示された事か

らそれを實地にやる、さう云ふ性質は非常に強いのですから僅かに示されても直さに自分がそれをやつて見るといふ性質が強いから餘程之を取扱ふ時に何でも少しの悪い方の影響でも與へるといふと直ぐに大變悪い事をやつて見るといふ傾きが多い、ですから斯う云ふやうな小供を扱ふには周圍の境遇に付て餘計氣を附けねばならぬ、境遇の爲に感化されることが多い性質を持つて居ると思はなければならぬ、

次に受動的兒童といふのはどんなやうな兒童であるかといふ事を申ませう、此受動的兒童と申しますのは前にも申しました様な自分からして活動するといふ方の性質に乏しいから同じ悲しい事があつても思切つて啼いて仕舞ふといふので無して心の中に恠へて居つてさうして長くシク／＼と悲んで居るやうな傾きがある、それから概して言ひますと兎角受動的兒童の方が考が沈んで居るといふやうなさう云ふ傾きがあるです、世間で俗に落附いて居る小供だといふのは大抵受動的の兒童です誠に幼いが能く落附いて居るといふのはそれは受

動的の兒童であります、此受動的の兒童でありますと暗示性といふものが餘程少いからしてそれで周圍の境遇がどうであらうとも境遇に依つて著しき所の影響は受けなだから世間で言ふ様に彼處の家では兄弟があつてさうして片方の小供は氣の落附かぬ騒ぐ小供だけ一緒に育つて居りながら片方の小供は能く落附いて居るといふ此能く落附いて居るといふのは暗示性の少い小供であるから一方の兄弟がどんなに騒いでも其影響を受けない様になつて居る、それだからして此人々の小供が割合に下層社會の悪い家庭に生れた小供であつても其性質が良いといふやうな小供が出来る、詰り自分の周圍の影響を受けない小供だからあの家に珍しく良い子が出来たといふのはそれです、それで良い小供が出来たと言はれるのはそれは大抵皆受動的の性質のものであります、此受動的の性質の小供は極く幼い時には他の人から見ると幾らか鈍くはあるまいか、あの小供は遅鈍ではあるまいかといふ疑を受ける性質の小供であります、併ながら遅鈍のやうに見へて居りますが年を取ると隨つ

て此遅鈍のやうになつて居る性質は段々變つて來まして本當に心が能く落附いて居つて何事でも出來るといふ方のさう云ふ勢力が追々に表はれて來るのです
 先生に向つて手を舉げたり或は聲を出して質問するといふやうな事は發動的の方の兒童はやりませぬ、自分に分らぬ事があつても考へて居る方若し側へ保姆が來て問へば漸くに答へるといふ譯で自分から公けに發表するといふやうなことは好みませぬ、發動的兒童の方は盛んに問を發することがありますが若し教師が之に向つて答へした時に發動的の兒童は自分の問うたことに答へくれるのだから能く注意して聞いて居るかといふと決してさうで無い、却つて其間に對して注意して聽いて居るのは受動的の小供の方が能く聽いて居る、それだからして小學校などでも質問を餘計する小供は必ず良い小供ぢや無い、黙つて居る小供の方が優等が多いのです寧ろ發動的兒童の方は受動的兒童の智識を與へる機會を作る爲に發言する様な事になつて仕舞ふ

それでありますから若し此教師の位地に立つて見るといふと如何にも問を餘計出し色々尋ねるから良い小供であらうと思ふ人もありますけれども決してさう云ふ譯にはいかぬのです、それから受動的の兒童の方は幾らか自分の心が臆するやうな傾きがある、些と臆病といふ傾きがあります、兎角遠慮深い小供でいけません云ふことを訴へらるるのは發動的の兒童では無くして受動的兒童の方が遠慮深い性質があります、併し此遠慮深い或は何か氣が臆する様だ、遠慮とか臆病とかいふ事は何の爲に起つて來るかといふと其小供自身の心に於て充分まだそれを知つて居らないかも知れぬから自分の心に明かに知つて居ると言はれないから遠慮して居る、だから此臆病とか遠慮とかいふ方は決して悲むべき性質では無くして却つて喜ぶべき方の性質であります、それだからして此類の小供は愈々自分で十分知つた、明かに分つたといふことがあれば其臆病といふ性質はスツカリ變つて決斷といふ性質になるのですそれだから此類の小供は非常に思切つたことをやることがあります、

それは何の爲かといふと充分知つてさうして心に決斷が出来た爲であります、それであるから諸君が直ぐ答が出来ると言つて手を舉げて居らない様な小供の中に愈々名前を指して言はせて見れば意外にもナカ／＼巧みに充分に能く答へる小供のあり事を發見するでありません、何の爲かといふと受動的の兒童は充分に知つて居らないと思つて居る時には答へられるといふ方に手は舉げなかつたでせう、それでありませうからして或小供は幾らか遠慮勝である臆病であるといふ風に見へること、を初から悲むに及ばない其臆病に見へるのが矢張り其小供の用心深い又充分明かに知らない事は自公が氣にして居る爲であるのです

▲灌漑に三十億圓を費す 米國コロラド州のウムコムバダレ地方は其面積百十二万エーカー(凡そ四十万町歩)の大砂漠なれども其中凡そ二十八万エーカーは灌漑の便を興ふるに於ては充分豐饒なる土地となり三百万人以上の人民を養ふに足るべしとの事にて米國政府は曩に十五億圓を支出して大灌漑工事を起すに決したるが目下工事は着々進行し居る由にて竣工の上は地價二十五億圓以上に上るべしと

○十七字詩

鹽野奇零

甲板に萬里の風や夕納涼
 縁日の肩押合ふて團扇かな
 庭にひく笥の下や心太
 夕立やわたら娘の下駄さげて
 立兼し雨戸の外や焚く蚊やり
 馬洗ふ流れの上やとぶ螢
 聞きわけて母の預かる實梅かな
 夕立や濡れぬ仕度も濡れてから
 帷子や草木に吹かぬ風もわる